



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 73 号

-
- | | |
|--|--|
| ・発行日 / 2007年9月20日 | ・発行所 / クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局 / 〒422-8053
静岡市駿河区西中原 2-7-63-1001
草野計雄方 | ・Tel / Fax 054-283-9317
・e-mail / cnec-kk@mail.wbs.ne.jp
・http:// www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
| ・郵便振替口座 / 00150-0-134994 | |
-

『わたしたちの本国は天にあります』

(新約聖書フィリピの信徒への手紙第3章20節)

理事長 木ノ内一雄

今年は戦争が終わって62年目に当たります。毎年行われる日本キリスト教団埼玉地区の「平和を求める8・15集会」の今年の講師は佐藤美和子さんでした。佐藤さんは東京都小学校音楽専科教員でピースリボン裁判の原告です。

佐藤さんは1999年、国立第二小学校の先生になりましたが、この年に国旗国歌法が成立しました。成立前は国立市の公立小中学校では実施されていなかったのですが、2年後全ての公立小中学校の始業式、卒業式で行われるようになりました。佐藤先生は君が代の強制に反対し、また、伴奏を拒否したために処分を受け、現在、最高裁に上訴しています。

佐藤先生の講演を聴きながら、私は内村鑑三不敬事件を思い出しました。明治24年(1891年)、第一高等中学校の嘱託教員であった内村は教育勅語拝戴式で「敬礼を盡(つく)さず、比神聖なる式場を汚せり」と非難され、学校を退職せざるを得なくなりました。内村は病になり、嘉壽子夫人は23歳の若さで永眠しました。内村はその12年後、明治36年(1903年)萬朝報に非戦論を書き、新聞社を辞めました。国家権力を相手に戦うことは大変勇気のいることです。

戦時下の大日本帝国憲法は「信仰の自由」を認めましたが、神社参拝、天皇礼拝は日本国民としての当然の義務、礼儀として強制されました。日本キリスト教団はそれを受け入れたため、戦争に加担することになり、海外のキリスト者にも甚大なる苦痛、被害を与えてしまいました。わたしたちは日本国民であることより、まず、神の国の民であるべきです。教会は国家、民族を超えるものです。国家への妥協が、十戒の第一戒を破る結果になったのです。

毎年開かれるパートナーズインターナショナルの代表者会議が7月、英国のリンカンで開催されました。アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、シンガポール、日本の代表が集まり、パートナーズの基本理念について討議され、どのように協力し、効果的に世界伝道ができるかが話し合われました。彼らは国の代表ではありません。その国にキリスト者として遣わされているのです。国や民族、人種を越え、神の国の民として何が出来るかを話し合い、一致できることは素晴らしいことです。

パートナーズ インターナショナル 代表者(CEO)会議 草野計雄

今年の代表者会議は、7月7、8日英国リンカン市のこじんまりした上品な Hillcrest Hotel で行なわれ、クリスチャン パートナーズからは木ノ内和美、草野計雄両理事が出席しました。カナダのブレント・ミッチェル氏が議長に就任し、前回までの議長ジョン・ローズ氏が会議準備の労をとり、オーストラリアのヘンゲル夫人が書記を勤めました。米国からはジョン・ルイス氏が、シンガポールからはポール・チャン氏の後任ジェイムズ・ライ氏が参加しました。会議前夜の晩餐会には数人の同伴者も加わって、国際親善と福音宣教のために同労する互いの親交を深め、このような確かな恵みを与えてくださる在天の主に感謝をささげたのでした。



左からライ、木ノ内、草野、ローズ、ヘンゲル、ミッチェル、ルイス各国代表

今回の主要課題は、変動する内外の情勢に対応するため、10年前に制定されたこの国際組織の会則『方針と標準』を見直すことでした。(松本顧問による翻訳があります。) パートナーズ インターナショナルに正式に代表を派遣できる会員国は現在、英・米・加・オーストラリア・シンガポール・日本の6カ国ですが、今後のことを考えて、そのレベルに達しない場合でも「非公式会員」の認定を受けた場合や、もう一段上の「発展途上会員」の資格を与えられる場合を設定し、世界各地における伝道・福祉体制の連帯の組織化と強化を、緊急に準備してゆこうということになったのです。

このような体制強化に必要な資金の提供を促すための、各国間の資金送金の確認システムの整備については、各会員国の現行のシステムを漸進的に改善することで対応することになりました。クリスチャン パートナーズの場合は現行の会計システムを、支援者自身による海外送金先の確認が可能な形に改善していくことで、他の会員国のシステム向上にも貢献できるようになるでしょう。

会議日程は、大別して上記の議定書審議、各会員国の報告、個別審議事項の3つに分けられます。各国の報告時間は30分ですが、プロジェクターやDVDなど発表技術は私たちの間でも日進月歩しています。日本からの提案事項は、数ヶ月前からEメールなどで関係者の意向を聴取しながら用意し、下記の3点にまとめました。

1. 成功例：

カナダに協力して、インドのミゾラム州にあるヘルモン養護施設への援助。

孤児たちに必須の英語教育を提供するため、教師謝礼の支援は10年を経過した。

中心的支援団体<サンタの会>が今年度で支援を終了したが、今後も国内のみならず海外にも支援者を求めて継続する。

2. チャレンジ：

アフリカのガーナ北部における職業訓練施設への援助。

アジア学院に留学経験のあるアモス・バンマリグ師のプロジェクトへの支援は、川越教会員有志を中核にしてクリスチャン パートナーズが開始した新しい試みであり、国内のみならず、アフリカ援助に経験豊かな他の会員国の指導を得て成功させたい。



会議の様子

右端は発表する草野理事

3. 将来方向：ホームページの刷新。日英語での相互リンクの活用など。

私たちクリスチャン パートナーズは、他の会員国に比べて事務所もなく職員もいない小さなボランティア団体ですが、それでも正式会員国です。その責任を全うするのは容易ではありませんが、300 通近い「通信」の読者の方々の思い、昨年亡くなられたフィンリー師の遺徳、理事その他協力者の善意によって積み上げられてきた、20年の会の歴史に与えられた総合的評価の結果と受け止めています。

パートナーズ インターナショナル代表者会議に出席して



聳え立つリンカン城を望んで 草野・木ノ内理事

木ノ内和美

イングランド東部の都市、リンカンの歴史は紀元前1世紀に遡り、長い間ローマ帝国の支配下に置かれていたため、街のいたるところに当時を窺わせるローマ軍の要塞が残っており、この古い街が長期にわたり、軍事上の拠点となっていたことを思わされました。5世紀には一時衰退したものの、中世に交易の中心として再び隆盛を取り戻しました。ノルマン人によるイングランド征服の2年後の1068年には、ウィリアム1世の命令によりリンカン城が築かれ、現在も当時と変わらず堂々とそびえたっていました。

また、1072年に建てられたリンカン大聖堂は地震により一度倒壊したものの、その後再建され、今でも荘厳な雰囲気醸し出しています。近世、重工業も発展し、現在では活気溢れる中にもレンガ造りの街並に中世の雰囲気を偲ぶ事が出来ました。

7月7日と8日に開かれたパートナーズ代表者会議は、このような歴史を持つ街で開かれました。私にとって代表者会議は初めてで、自分に何か出来るだろうか、との迷いの中での参加でした。その不安も、会議前夜の晩餐会で以前出会ったことのある各国代表、また夫人方と再会した時に吹き飛びました。昨年のマルタ島会議でお会いし、親交を深められた事が何よりも幸いしました。

翌朝から会議が始まり、それぞれの国の活動報告を伺いました。どの国も事務所を持ち、しっかりとした組織の上にスタッフが毎日働いており、支援者の数も日本とは比較にならないほど多く、したがって活動も多くの地域にわたっています。カナダの例を挙げると、アジアではインドネシア、フィリピン、タイ、インドなど、アフリカではセネガル、ガーナ、ケニヤ、マリ、ザンビアなど、中南米ではキューバ、グアテマラ、ブラジル、ペルーなど多くの国でクリスチャンと信頼関係を築き協力し合って、地域の様々なニーズに応じて援助の手を差し伸べています。各国で共通している目標は、貧困からの脱却、生活環境の向上、子供たちや学生への教育支援、教会伝道、またイスラム圏に住むクリスチャンへの支援などです。また今回の会議では、将来を見据えて、パートナーズ インターナショナルの会則の刷新に多くの時間が割れました。今後、支援する側の枠を広げていくためにもとても大切な事だと思います。

日本が独自の支援を軌道に乗せるためには、まだ時間がかかりますが、私たちの目指していることと、各国が進めていることとは、根源で一つであるという思いを持ってました。私たち北半球に住む富める国が、そうでない多くの国の人たちと地球の豊かな恵みを共有する事は、与えられている使命であると思うのです。私たちにできることは限られていても、続けていくことでその地域に住む人が人間の尊厳を取り戻せば、私たちにとって大きな喜びです。正に「継続は力なり」という思いを噛み締めて帰国の途に着きました。

2005年7月に日本を訪問された米国代表ジョン・ルイス氏の夫人アナタさんと再会を喜ぶ沐ノ内理事



デヴィさんの職場、イカの高校

第72号4ページで紹介した元奨学生デヴィ・スサンティさんが教鞭をとる高校の様子です。



教室前方の角に座るのがデヴィ先生



校庭で合唱を楽しむ生徒たち

【理事会報告】第147回理事会は2007年7月23日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2007年5・6月度会計報告承認。7月7・8日に英国リンカン市で開催されたパートナーズ インターナショナル代表者会議の報告。2006年度決算予想と2007年度予算試算について協議。「通信」第73号の内容協議、次回理事会のあと発行予定。

第148回理事会は2007年9月10日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2006年度決算、2007年度予算承認。2007年7・8月度会計報告承認。コルカタ水害への支援金\$400送金承認。「通信」のカラー化は費用多額のため、現時点では断念。ガーナへの支援金の郵便局経由送金が非常に困難であることが判明し、銀行経由の方法を試みることになった。ガーナとミゾラム支援の発展のため、新しいリーフレットと申込書作成の必要を協議。「通信」第74号の内容は次回理事会で協議、2008年1月発行の予定。

第149回理事会は2007年11月26日(月)一ツ橋学士会館で開催予定。

<編集後記> 今年はアジア各地で水害が発生していますが、パートナーズ インターナショナルから、インドのコルカタ(カルカッタ)の洪水で、生活困窮者が多発しているとのことで、支援要請が来しました。クリスチャン パートナーズでは400ドル(約5万円)をお送りしました。現地にいる同業者が有効に用いてくださることを願っています。

ホームページが刷新されました。会員の皆様もぜひご覧ください。ご家族・ご友人にも閲覧をお勧めください。アドレスは第1ページ上部にあります。

猛暑続きの日々でしたが、いかがお過ごしでいらっしゃいましたか。ようやく秋風を感じるようになりました。私たちは7月が年度替りですので、新しい思いで今年度の歩みを始めています。

鳥海百合子

クリスチャンパートナーズ 2006 年度決算

2006 年 7 月 1 日 ~ 2007 年 6 月 30 日

収入の部	前年度繰越	697,458 (単位円)	
	SAC 援助金	3,045,000	
	その他援助金	1,017,984	注 1
	雑 収 入	69,095	
合 計		4,829,537	
支出の部	S A C 援助金	2,286,000	注 2
	ロバン村援助金	0	
	ミゾラム援助金	200,000	注 3
	同労諸団体協力	237,000	注 4
	進学奨励金	585,000	注 5
	被災地救助	0	
	広報・通信・情報費	106,024	注 6
	行事関係費	461,545	注 7
	その他事務経費	674,962	注 8
	予備費	0	
合 計		4,550,531	
次年度繰越		279,006	

2006 年度末積立残高

事業開発基金	3,200,000
緊急援助準備	1,000,000
進学奨励積立	1,000,000

注 1 田園調布教会他

注 2 支給児童数 61 ~ 64 名(延べ 737 名)
誕生日 ¥ 37,000、クリスマス ¥ 38,000

注 3 < サンタの会 > よりの援助最終回

注 4 セイダウン小学校教師 2 名 ¥ 84,000

後藤公子師後援 ¥ 30,000

アンテオケ宣教会 ¥ 30,000

高橋めぐみ宣教師招待謝礼 ¥ 31,000

アモス・バンマリグ師宣教支援 ¥ 62,000

注 5 インマヌエル中学校生 17 名 ¥ 102,000

大学生 5 名 ¥ 60,000、神学生 5 名 ¥ 423,000

注 6 「通信」第 69,70,71,72 号製作印刷発行

注 7 理事会会場費、遠隔者交通費、海外訪問客対応
国際会議参加費(於マルタ残額、於リンカン市前
払い)

注 8 コピー機購入 ¥ 220,500

監 査 報 告 書

私は 2006 年 7 月 1 日より 2007 年 6 月 30 日に至るクリスチャンパートナーズの会計年度の監査をいたしましたところ、諸援助金の受領・領収書の発行・パソコン記録による記帳、並びに援助金の海外送金・諸経費支払の証拠書類及び理事会に対する報告書・年次決算書等は何れも正確且つ適切に処理されており、予算は諸状況に応じ、会の趣旨に沿って適切に運営されていることを認めました。

会員の皆様の一層の御協力をお願いいたします。

2007 年 8 月 15 日

クリスチャンパートナーズ
監事 奈須 輝美

クリスチャンパートナーズ 2007年度予算

2007年7月1日～2008年6月30日

収入の部	前年度繰越	279,006 (単位円)	
	SAC 援助	3,180,000	注1 各月支援児童数 65名×12ヶ月×¥4,000
	その他援助金	1,000,000	誕生日・クリスマス¥60,000
	積立金取り崩し	200,000	
	合 計	4,659,006	
支出の部	SAC 援助金	2,400,000	注2 各月支援児童数 65名×¥36,000+ ¥60,000
	ミゾラム援助金	200,000	注3 ヘルモン養護施設英語教師謝礼
	同労諸団体協力	206,000	注4 小学校教師3名支援¥126,000 後藤公子師¥30,000,アンテオケ宣教会¥50,000
	進学奨励金	540,000	注5 中学生17名¥102,000、大学生5名¥60,000 神学生5名¥378,000
	被災地救助	100,000	
	施策企画調査費	100,000	
	広報・通信・情報	240,000	注6 ホームページ英語版製作組み入れ
	行事関係費	400,000	注7 会議参加費追加¥325,000 於リンカン市
	その他事務経費	450,000	注8 事務機器管理費用等
	予備費	0	
	合 計	4,636,000	
	次年度繰越	23,006	

年度末積立残高

事業開発基金	3,000,000
緊急援助準備	1,000,000
進学奨励積立	1,000,000

援助会員の異動

新入会者：叶内盈子、川越教会有志、鈴木正道、宮崎はな乃
森村恵子、吉川俊子

退会者：青木 彰、大沢民子グループ、佐々木さよ子、南谷行宏

(「通信」第69号2006年7月記載後、敬称略・アイウエオ順)

